

## 公明党 森しず子 議員



- ①発達障害児の子供への支援について
- ②学校教育における読書活動について
- ③鳥獣対策について

**質問①** 19年度スタートした特別支援教育の現状は、就学前の保育所・幼稚園の取り組みは。

**答弁①** 通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒数は580名で、取組については、各学校で校内委員会を組織し、コーディネーターを中心に、個別の指導計画を作成し一貫した指導に努めている。昨年度は、あすなろ学園から職員研修に講師を派遣をして頂き、発達障がい児の継続的支援の重要性について認識を深めた。今年度は発達障がい児の早期発見・早期支援のため、職員を子育て支援課などに配置し、幼稚園と保育

所へ、あすなろ学園・教育研究所員・健康づくり課職員などが一緒に巡回相談を実施し、教職員などのスキルアップを図りたい。部局をこえて取り組んでいきたい。

**質問②** 現状や今後の取り組みは。

**答弁②** 各学校で、子どもたちが興味をもてるよう展示などを工夫し、朝の10分間読書や「読み聞かせ」「ブックトーク」「親子読書」図書館まつりなど様々な活動に取り組んでいる。今後は、学校図書館巡回指導事業の充実と地域に開かれた学校図書館運営のためのシステムづくりを行っていきたい。

**質問③** 市内でサル等の鳥獣による農作物被害が多発しており、\*モンキードッグを導入しては。

**答弁③** 早い時期に対応策を検討したい。

\*モンキードッグ=野生のサルによる農作物の被害をくいとめるため訓練された犬

## 日本共産党 森川ヤスエ



- ①市営住宅入居待ち改善策について
- ②高齢者の健診について

**質問①** 高齢者・母子家庭等経済的困難な世帯には市場家賃は収入の30%を超える事が多く、生活を直接圧迫するので、入居申し込みから半年以内の入居保障のため、住宅の増設、民間借上げ、家賃補助などの対策を求める。

**答弁①** 公営住宅法施行令の改正で、来年度から入居収入基準が月収20万円から15万8千円に改定されることから、入居対象者の待ち期間は短くなると思われる。社会的経済的弱者の早期入居促進のための対策は、

順番待ちの空き家紹介についての改善策や抽選会の回数を増やす等を実施している。また本市の将来的な住宅施策のありかたや「鈴鹿市版住生活基本計画」について検討している。

**質問②** 75歳以上の高齢者にも人間ドック検診などを実施することを求める。

**答弁②** 75歳以上の方については、三重県後期高齢者医療広域連合で「長寿医療健康診査」が実施される。75歳以上の人間ドック・脳ドックを本市独自での実施については、長寿医療健康診査が4月からスタートしたところであるので、その実施状況を見守りながら、他の健診状況等も考慮し、仕訳・検証し研究したい。

## 日本共産党 石田 秀三 議員



- ①「人権意識調査」報告書について
- ②鈴鹿のお茶の振興について

**質問①** 本年2月に鈴鹿市が出した「人権問題に関する意識調査」報告書は、その内容は半分が同和問題に関するもので偏りがある。また結果の分析も、数値の下がったものを「部落問題が潜在化、陰湿化の方向に変化」とか「一概に改善したとは考えられない」などとねじ曲げている。さらに市民の率直な意見を勝手に「前向き・後向き」と分類し、「同和問題は差別する人が存在し、温存する立場にある人々が存在し続けることにより、なくならない」と決めつけている。

このような特異な理論を掲げた報告書は、鈴鹿市の公文書としては認められない。

**答弁①** この調査は自由記述を含めた人権問題全般における市民意識の動向について調査する目的で質問項目を選んでおり、調査結果を真摯に受け止め、今後の人権啓発事業を推進したい。

**質問②** 鈴鹿市はお茶の有数な産地であり、どこよりも産業として、また食文化としてお茶を大切にしたい。特に一生の味覚や習慣を身につける子供時代に、家庭と学校でお茶に親しむ工夫をされたい。

**答弁②** 小学校や公民館等で「お茶のお話し会」を開催したり、啓発活動に努めている。家庭や地域と協力しながらお茶に親しむ機会を増やして参りたい。